

財団法人 日本サッカー協会

平成 19 年度 第 11 回理事会

協議事項

1. J F A インターナショナル・コーチング・コース 2008 (A F C 加盟協会向け) および
J F A インターナショナル・レフェリー・インストラクター・コース 2008
(A F C 加盟協会向け) の件

アジア貢献事業の一環として、下記の指導者養成コースを開催する。

[1]

コース名： (第3回) J F A インターナショナル・コーチング・コース 2008 (A F C 加盟協会向け)

期 間： 2008 年 4 月 19 日 (金) ～25 日 (金)

会 場： J ヴィレッジ

講 師： ナショナルコーチングスタッフ、ナショナルトレセンコーチ

募集人数： 25 名 (最大)

応募資格： ・ A F C 加盟協会にて、育成・強化に携わり、英語が堪能な指導者
・ 各協会から最大 2 名が応募可能

費用負担： 日本までの国際航空券代は、参加協会または参加者が負担する。
日本国内移動費・宿泊費・食費は J F A が負担する。

資格授与： 期間中に行うテストに合格した人には、J F A 公認 C 級コーチライセンスを授与する。

備考： 第 1 回は 2006 年 3 月 13 日～19 日に J ヴィレッジで開催し 20 名が参加。
第 2 回は 2007 年 3 月 12 日～18 日に J ヴィレッジで開催し 20 名が参加。
両回とも、全員が筆記・指導実践に合格したので J F A 公認 C 級コーチと認定していた。

[2]

コース名： (第1回) J F A インターナショナル・レフェリー・インストラクター・コース
2008 (A F C 加盟協会向け)

期 間： 2008 年 4 月 22 日 (火) ～26 日 (土)

会 場： J ステップ

講 師： J F A S 級審判インストラクター

募集人数： 25 名 (最大)

応募資格： ・ A F C 加盟協会にて、地域レベルの審判員・全国レベルを目指す審判員の育成に
携わり、英語が堪能な審判インストラクター
・ 各協会から最大 2 名が応募可能

費用負担： 日本までの国際航空券代は、参加協会または参加者が負担する。
日本国内移動費・宿泊費・食費は J F A が負担する。

資格授与： コースを終了した参加者には、修了証を授与する。（資格の付与はしない）

2. フットサル日本代表フィジカルコーチの件

※（協議）資料No.1

フットサル日本代表フィジカルコーチを以下の通り招聘する。

氏 名：ルーカス（ルイス・クラウディオ・マルケス・デ・ソウザ）

期 間：2008年3月18日～5月20日

（フットサル日本代表スペイン遠征～AFCフットサル選手権2008終了まで）

3. ドーピング禁止規程改正の件

※（協議）資料No.2①②

4. 「サッカーが面白くなる！うまくなる！クイズ（仮題）」監修の件

現在、『JFAnews』の末尾で連載している「サッカー豆知識」を元に、(株)カンゼンが単行本化を企画しており、ついては、日本サッカー協会監修として同誌を出版化させたい。

< JFA 監修出版物 >

(1) 題名：「サッカーが面白くなる！うまくなる！クイズ」（仮題）

(2) 仕様：四六判・192ページ前後・4C/2C・総ルビ

(3) 発行：2008年春

(4) 部数：8,000部予定（本体予価 1,200円予定）

(5) 対象：サッカープレーヤー、保護者、指導者

(6) 内容：クイズ約100～130問を収録

『JFAnews』で連載している「クイズ・サッカー豆知識」の内容を膨らませ構成。クイズは、必要な場合は答のほかに解説・イラスト・写真等を用いて記載。クイズのほかに、観戦マナーや、指導者・保護者の心得に関するコラムも盛り込む。

① PART1：ルール 50問

② PART2：ゲーム戦術 30問

③ PART3：フィジカル（栄養学を含む）20問

④ PART4：その他 30問（サッカーの知識、サッカー用語ほか10）

⑤ コラム：観戦マナーやフェアプレー精神を感じさせる選手のエピソードなどを掲載

5. 平成20年度JFAアンバサダー選考の件

次の18名（新規4名、再任14名）を、平成20年度JFAアンバサダーとして推薦したい。

【新規】

氏名：岩本 輝雄

生年月日：1972年5月2日（35歳）

出身：神奈川県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）9試合、
J1リーグ戦191試合、J2リーグ戦46試合

所属チーム：瀬ヶ崎SC → 横浜市立六浦中学校サッカー部 → 横浜商科大学高等学校
→ フジタSC → ベルマーレ平塚 → 京都パープルサンガ
→ 川崎フロンターレ → ヴェルディ川崎 → ベガルタ仙台
→ 名古屋グランパスエイト → ニュージーランド・オークランドシティ
（2006年シーズン終了後引退）

氏名：中西 永輔

生年月日：1973年6月23日（34歳）

出身：三重県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）14試合
J1リーグ戦309試合

所属チーム：愛宕サッカー少年団 → 鈴鹿市立白子中学校サッカー部
→ 三重県立四日市中央工業高等学校 → ジェフユナイテッド市原
→ 横浜F・マリノス（2006年シーズン終了後引退）

※ 2007年度B級取得見込

氏名：名良橋 晃

生年月日：1971年11月26日（36歳）

出身：千葉県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）38試合
J1リーグ戦310試合、J2リーグ戦1試合

所属チーム：千葉市立作新小学校 → 千葉市立天戸中学校 → 千葉英和高等学校
→ フジタSC → ベルマーレ平塚 → 鹿島アントラーズ
→ 湘南ベルマーレ（2007年シーズン終了後引退）

氏名：山口 素弘

生年月日：1969年1月29日（39歳）

出身：群馬県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）58試合、

J1リーグ戦362試合、J2リーグ戦106試合

所属チーム：高崎市西サッカー少年団 → 高崎市立片岡中学校 → 前橋育英高等学校
→ 東海大学 → 全日空 → 横浜フリューゲルス
→ 名古屋グランパスエイト → アルビレックス新潟 → 横浜FC
(2007年シーズン終了後引退)

※保有資格：B級

【再任】

氏名：永島 昭浩

生年月日：1964年4月9日（43歳）

出身：兵庫県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）4試合、J1リーグ戦 165試合

所属チーム：神戸市立千歳小学校 → 神戸市立太田中学校
→ 神戸市立御影工業高等学校 → 松下電器産業(株)サッカー部
→ ガンバ大阪 → 清水エスパルス → ヴィッセル神戸
(2000年シーズン終了後引退)

※保有資格：C級

氏名：武田 修宏

生年月日：1967年5月10日（40歳）

出身：静岡県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）18試合、J1リーグ戦 237試合

所属チーム：浜松佐藤サッカースポーツ少年団/浜松JFC → 浜松市立丸塚中学校
→ 静岡県立清水東高等学校 → 読売クラブ → ヴェルディ川崎
→ ジュビロ磐田 → ヴェルディ川崎 → 京都パープルサンガ
→ ジェフ市原 → スポルティボ・ルケーニョ → ヴェルディ川崎
→ 東京ヴェルディ1969（2001年シーズン終了後引退）

※保有資格：S級

氏名：小島 伸幸

生年月日：1966年1月17日（42歳）

出身：群馬県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）4試合、

J1リーグ戦239試合、J2リーグ戦23試合

所属チーム：前橋市立勝山小学校 → 新島学園中学校 → 新島学園高校
→ 同志社大学 → フジタSC → ベルマーレ平塚 → アビスパ福岡
→ ザスパ草津（2005年シーズン終了後引退）

※保有資格：B級

氏 名：澤登 正朗

生年月日：1970年1月12日（38歳）

出身：静岡県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）16試合、J1リーグ戦381試合

所属チーム：富士宮市立上野小学校 → 東海大学第一中学校

→ 東海大学第一高等学校 → 東海大学

→ 清水エスパルス（2005年シーズン終了後引退）

※ 保有資格：B級

氏 名：相馬 直樹

生年月日：1971年7月19日（36歳）

出身：静岡県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）58試合、J1リーグ戦289試合

所属チーム：清水FC → 清水第六中学校 → 清水東高等学校 → 早稲田大学

→ 鹿島アントラーズ → 東京ヴェルディ1969 → 鹿島アントラーズ →

川崎フロンターレ（2005年シーズン終了後引退）

※ 保有資格：B級

氏 名：小倉 隆史

生年月日：1973年7月6日（34歳）

出身：三重県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）5試合

J1リーグ戦166試合、J2リーグ戦75試合

所属チーム：白子サッカー少年団 → 鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校

→ 三重県立四日市中央工業高校 → 名古屋グランパスエイト

→ オランダ・エクセルシオール → 名古屋グランパスエイト

→ ジェフユナイテッド市原 → 東京ヴェルディ1969

→ コンサドーレ札幌 → ヴァンフォーレ甲府

（2005年シーズン終了後引退）

※保有資格：B級

氏 名：城 彰二

生年月日：1975年6月17日（32歳）

出身：北海道

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）35試合、

J1リーグ戦230試合、J2リーグ戦151試合

所属チーム：室蘭市立中島小学校 → 加治木町立加治木中学校

→ 鹿児島実業高等学校 → ジェフユナイテッド市原

→ 横浜F・マリノス → スペイン・バリャドリード

→ 横浜F・マリノス → ヴィッセル神戸 → 横浜FC
(2006年シーズン終了後引退)

※2007年度B級取得見込

氏 名：前園 真聖

生年月日：1973年10月29日(34歳)

出身：鹿児島県

試合出場数：日本代表(国際Aマッチ)19試合、

J1リーグ戦191試合、J2リーグ戦38試合

所属チーム：東郷サッカースポーツ少年団 → 東郷中学校 → 鹿児島実業高等学校

→ 横浜フリューゲルス → ヴェルディ川崎 → ブラジル・サントス

→ ブラジル・ゴイアス → 湘南ベルマーレ → 東京ヴェルディ1969

→ 韓国・安養LG → 韓国・仁川ユナイテッド

(2004年シーズン終了後引退)

※保有資格：C級

氏 名：大竹 奈美

生年月日：1974年7月30日(33歳)

出身：東京都

試合出場数：日本女子代表(国際Aマッチ)46試合

所属チーム：本町田サッカークラブ → 読売日本サッカークラブベレーザ

(2001年7月引退)

※保有資格：B級

氏 名：川上 直子

生年月日：1977年11月16日(30歳)

出身：兵庫県

試合出場数：日本女子代表(国際Aマッチ)48試合

所属チーム：高丘西小学校 → 田崎真珠神戸FCレディース → TASAKIペルーレFC

→ 日テレ・ベレーザ(2006年シーズン終了後引退)

※保有資格：C級

氏 名：東明 有美

生年月日：1972年6月1日(35歳)

出身：岐阜県

試合出場数：日本女子代表(国際Aマッチ)43試合

所属チーム：則武若鮎サッカー少年団 → 岐阜女子FC

→ プリマハムFCくノ一(現伊賀FC)(2000年シーズン終了後引退)

※保有資格：C級

氏 名：野田 朱美

生年月日：1969年10月13日（38歳）

出身：東京都

試合出場数：日本女子代表（国際Aマッチ）76試合

所属チーム：読売サッカークラブベレーザ → 宝塚バニーズ
（1996年シーズン終了後引退）

※ 保有資格：C級

氏 名：本田 泰人

生年月日：1969年6月25日（38歳）

出身：福岡県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）29試合、J1リーグ戦328試合

所属チーム：二島スポーツ少年団 → 北九州市立響南中学校 → 帝京高等学校
→ 本田技研工業(株)サッカー部 → 鹿島アントラーズ
（2006年シーズン終了後引退）

※2007年度B級取得見込

氏 名：Wagner Pereira Cardozo（Amaral）

生年月日：1966年10月16日（41歳）

出身：ブラジル・サンパウロ州

試合出場数：J1リーグ戦101試合、J2リーグ戦45試合

所属チーム：→ コメルシア（ブラジル）→ カッピバリアーノ → イトゥアーノ
→ パルメイラス → FC東京 → 湘南ベルマーレ → アルテ高崎
（2007年4月引退）

6. 審判トレーニングセンター・ダイレクターの追加の件

※（協議）資料No.3

審判トレーニングセンターのダイレクターに鈴木 亮哉氏を追加する。

氏 名：鈴木 亮哉（スズキ フサヤ）

生年月日：1961年8月21日（46歳）

7. 2008(第5期)レフェリーカレッジ生の追加の件

2008（第5期）レフェリーカレッジ生として、当初の入学生3名に加えて、審判トレーニングセンターで評価の高かった次の2名を追加する。

① 亀川 哲弘 (カメガワ アキヒロ・長崎県)	1979. 4. 28生	28歳
② 武部 陽介 (タケベ ヨウスケ・大阪府)	1986. 3. 16生	21歳

8. 平成20年度ナショナルトレセンコーチ [女子担当] の件

※ (協議) 資料No.4①～③

次の16名を、平成20年度のナショナルトレセンコーチ [女子担当] とする。

チーフ：	今泉 守正 (JFAアカデミー福島 女子 ヘッドコーチ)	
北海道：	松田 哉	
東北：	坂尾 美穂 (JFAアカデミー福島 女子 コーチ)	
関東：	手塚 貴子 (栃木サッカークラブ)	
	田口 禎則 (日本女子サッカーリーグ 総務主事)	*担当地域変更
北信越：	沖山 雅彦 (JFAアカデミー福島 女子 コーチ)	*新任
	<u>田辺 友恵 (JAPANサッカーカレッジ)</u>	*新任
東海：	山口小百合 (磐田市役所)	
関西：	加治 真弓 (神戸市立王塚台中学校)	
中国：	和田 敬 (岡山県立玉野高等学校)	*四国と兼任
	<u>大部 由美</u>	*新任
四国：	和田 敬 (岡山県立玉野高等学校)	*中国と兼任
九州：	北川ちはる (九州総合スポーツカレッジ)	
全体：	<u>富田 哲二 (エルフスポーツクラブ)</u>	*新任
	高倉 麻子	
G K：	西入 俊浩 (東京電力女子サッカー部 マリーゼ)	
	小林 忍 (JFAアカデミー福島 女子 GKコーチ)	

9. 2007 (平成19) 年度公認S級コーチ養成講習会判定結果の件

全てのコースを修了し、筆記試験・口頭試験・指導実践・レポート全てにおいて合格したため下記1名を公認S級コーチと認定する。

氏 名 : 北野 誠 (きたの まこと)

所属チーム : ロアッソ熊本

生年月日 : 1967年7月17日

資 格 : 2000年 公認B級コーチ

2005年 公認A級コーチ

指導歴 : 1997年～2001年 京都パープルサンガジュニアユースコーチ

2002年～2003年 京都パープルサンガジュニアユース監督

2004年 京都パープルサンガユースコーチ
2005年～現在 ロアッソ熊本（旧ロッソ熊本）ヘッドコーチ

※参考：現S級コーチライセンス保持者数：260名（上記1名含む）

10. 公認A級コーチU12養成講習会【S級ショートコース（仮称）】の件

※（協議）資料No.5

公認S級コーチライセンス保持者を対象とした、公認A級コーチU12養成講習会【S級ショートコース（仮称）】を開設する。

（1）目的

S級既得者に対し、短期間で受講できる講習会を設定し、公認A級コーチU12ライセンス保持者を増やすことで、「JFA 2005年宣言」実現のためのロードマップの一環である「U12年代の指導の充実およびU12対象のモデル地区トレセンの展開」を進めることを目的とする。

（2）対象

S級コーチライセンス保持者で、A級コーチU12ライセンス取得を希望する者。

（3）講習

A級コーチU12の前期講習の一部に参加（別紙参照）。

（4）モデル地区トレセン担当指導者の選任

A級コーチU12ライセンス取得後、JFAが適任と思われる人を選定し、指導実践（A級コーチU12講習会後期終了直後）を受けた後に選任する。

11. 2008（平成20）年度JFA公認指導者講習会開催要項の件

※（協議）資料No.6①～⑩

別紙開催要項のとおり、2008（平成20）年度公認指導者講習会を開催する。

主な変更点は以下のとおり。

（1）公認B級コーチ養成講習会

1) コース数の増設

受講希望者数の増加に伴い、Jクラブの協力を得て、Jクラブコースをトライアルとして開設する。一定の開催条件を満たしたJクラブの中から、2008年度は、試験的導入として、JFAが開催可能なクラブ（2クラブ予定）を指定する。2009年度以降は、J1・J2各クラブから開催希望を募り、応募のあったクラブの中からJFAが選定する。開催クラブには10名の受講者枠が割り当てられる。 ※開催概要の詳細は別紙参照

2) 自己推薦枠の撤廃

講習会終了後、ライセンス取得者が都道府県サッカー協会との関わりをもって活動できるよう、講習会への申込みは都道府県サッカー協会を通じて行うこととする。受講を希望する場合は、都道府県サッカー協会で実施される受講者推薦のための選考会を受け、都道府県サッカー協会の推薦を受けてJFAへ申し込むこととなる。

3) 都道府県サッカー協会の推薦枠の増加（コース数増により）

240名（2007年度） ⇒ 280名（2008年度）

12. 公認キッズリーダー養成講習会受講年齢の件

公認キッズリーダー養成講習会の受講資格（年齢制限）を以下のとおり変更する。

（現 行）

2007年度の場合、2007年3月31日現在、満18歳以上であるもの。

（変更案）

2008年度の場合、2008年3月31日現在、満16歳以上であるもの。

（目 的）

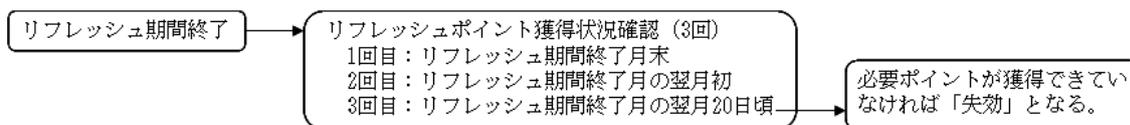
高校生年代から子供たちへの適切な接し方を学び接する機会を持つことで、社会性や将来に向けての進路の選択等にも好影響を与えるものとする。そのため16歳以上からキッズリーダー養成講習会を受講できるように受講資格（年齢制限）を変更する。

13. 指導者資格の失効および復活の件

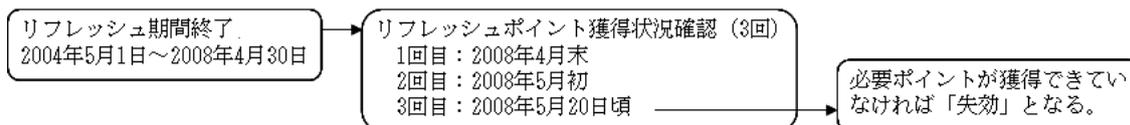
2004年より公認指導者登録制度が始まり、2008年で4年目を迎える。

それに伴い、指導者資格更新に必要なリフレッシュポイントを期間内に獲得できなかった場合、資格が失効することとなる。資格失効までの流れと、やむを得ない理由によりリフレッシュポイント獲得ができなかった場合の資格復活の手続きを、下記のとおりとする。

■ 資格失効の流れ



(例)



※失効者にはすでに口座引落としされた翌年度登録料を返金する。

■ 資格復活について

(1) 資格復活の条件

復活可能期間内で不足したリフレッシュポイントを獲得すること。

※ 復活可能期間：旧ライセンス期間終了日の翌日から6ヶ月

※ 資格復活は、同ライセンスにつき1回限りとする。

(2) 資格復活の手順

- 1) 所定の資格復活申請書を取得 (JFA ホームページからダウンロード又は指導者登録窓口より入手)
- 2) 申請書に参加したリフレッシュ研修会名とリフレッシュポイントを記入
- 3) 申請書を指導者登録窓口へFAX
- 4) 承認後、新ライセンス発行

(3) 資格復活に伴うリフレッシュポイントの追加

新ライセンスに、通常のリフレッシュポイントに加え10ポイントを追加する。

例) C級の場合、40ポイント+10ポイント=50ポイント

14. 大学・専門学校における指導者養成講習会の件

以下の大学において、平成20年度以降より公認C級コーチ養成講習会の開設を認める。

1. 岐阜経済大学 (岐阜県) (C級)

インストラクター：高橋 正紀 (公認47FAインストラクター) 公認A級コーチ

勝野 正之 (公認47FAインストラクター) 公認A級コーチ

2. 専門学校北海道体育大学校（北海道）（C級）

インストラクター：山橋 貴史（JFAナショナルコーチングスタッフ）

公認S級コーチ

参考：開設認定校数 大学：25校 短大：2校 専門学校：15校

15. キャプテンズ・ミッション(CHQ) 関連事項の件

I. 「サッカーファミリー」コンセプトについて（協議事項）

※（協議）資料No.7

II. キャプテンズ・ミッション ミッション名の変更(平成20年4月～)について（協議事項）

(変更箇所は太字下線)

- M1：「JFAメンバーシップ制度」の推進
- M2：「JFAグリーンプロジェクト」の推進
- M3：「JFAキッズプログラム」の推進
- M4：中学生年代の**環境充実**（変更前：中学生年代の活性化）
- M5：エリート養成システムの確立
- M6：女子サッカーの**活動推進**（変更前：女子サッカーの活性化）
- M7：フットサルの普及推進
- M8：リーグ戦の推進と競技会の整備・充実
- M9：地域／都道府県協会の**活動推進**（変更前：地域／都道府県協会の活性化）
- M10：中長期展望に立った方針策定と提言
- M11：スポーツマネジメントの強化

III. 平成20年度 各種支援制度の対象協会について（協議事項）

1. 各種支援制度 補助金一覧

※（協議）資料No.8

2. 各種支援制度 選定に関して

1) M3：「JFAキッズプログラム」の推進【2008年度支援制度(キッズ)】

※（協議）資料No.9

2) M4：中学生年代の環境充実【2008年度支援制度(中学)】

※（協議）資料No.10

3) M5：エリート養成システムの確立【2008年度支援制度(エリート)】

※（協議）資料No.11

4) M6:女子サッカーの活動推進【2008年度支援制度(女子)】

※ (協議) 資料No.12

5) M7:フットサルの普及推進【2008年度支援制度(フットサル)】

※ (協議) 資料No.13

6) M8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実【2008年度支援制度(リーグ戦)】

※ (協議) 資料No.14

7) M9:地域/都道府県協会の活動推進

➤ 【2008年度支援制度(チャレンジFA)】

※ (協議) 資料No.15

➤ 【2008年度支援制度(シニア)】

※ (協議) 資料No.16

➤ 【2008年度支援制度(タスクフォース)】

※ (協議) 資料No.17

IV. JFAフットボールデーについて (協議事項)

【名称】 JFAフットボールデー supported by KIRIN/adidas

～事業・イベント名(都道府県サッカー協会が個別に決定)～

【主旨】「JFA2005年宣言」具現化のため、JFAは都道府県サッカー協会とサッカーファミリーの輪を広げる様々な取り組みを行っている。

サッカーファミリーの輪を更に広げるためには、サッカーをプレーしていない人々にもサッカーの良さや楽しさを感じられる機会を設けることが、登録者のプレー環境を整備していくことと同様に今後必要と考える。

多くのサッカーファミリーが集い、また更にサッカーファミリーの輪を広げる目的のため、「フットボールデー」を制定し、広く門戸を開放し参加者を募ったイベントを推進する。

【制定日】 9月10日(JFA創立記念日)

【実施期間】 原則として、都道府県での開催イベントを制定日直後の週末(2008年の場合は、9月13日(土)～9月15日(月祝))とする。

※当面は、上記で開催が不可能な場合は、制定日前後1ヶ月(2008年の場合は、8月9日(土)～10月13日(月祝))での開催も可とする。

※2008年度については、会場調整・手配等の諸事情より上記期間以外に開催の場合は、別途個別に協議する。

【主催】 都道府県サッカー協会

【後 援】(財)日本サッカー協会

【特別協賛】キリングroup/アディダス ジャパン 株式会社

【共催/協賛/協力】

調整中

※都道府県における共催/協賛/協力や各種名義取得等の詳細に関しては、
「開催説明資料」にて明記。

【会 場】47 都道府県サッカー協会が独自に定め、確保。可能であればワールドカップ開催スタジアム、都道府県フットボールセンター、J F A J A W O C 公認 2002 F I F A ワールドカップ™キャンプ候補地および「天然芝」の施設を有効に活用。

【内 容】47都道府県サッカー協会が独自に企画。但し、イベントの「組織」、「運営」や「申請方法」等に関しては「開催説明資料」にて明記。

【補 助 金】J F A からの補助金は、各都道府県協会へ上限30万円(北海道協会のみ、他の J F A 補助金を参考に、4ヶ所<回分>として上限120万円)。

【そ の 他】会場に掲出するバナー(KIRIN/adidas)を製作。制作費・掲出に掛かる経費は J F A 負担とする。

また、特別協賛のキリングroup、アディダス ジャパン 株式会社のご協力のもと、イベント時に活用頂ける飲料や用具(ボール・ピブス等)を主催都道府県協会へ提供。詳細については「開催説明資料」にて明記。

本事業の担当部署はCHQとし、「M9. 地域/都道府県協会の活性化」に位置付け、他のCHQ各種支援制度に「フットボールデー」として加える。

V. 都道府県フットボールセンター整備推進事業について(協議事項)

「都道府県フットボールセンター整備助成事業」平成 20 年度助成金の交付申請書の提出を受け、「都道府県フットボールセンター整備助成事業 助成金交付要項」第 7 条の規定に基づき、次のとおり、助成金交付の決定を行う。

1. 助成金交付申請書の提出

平成 19 年度 第 8 回理事会(2007 年 12 月 7 日)にて交付の内示を決定した平成 19 年度の 6 件の案件(茨城県/三重県/奈良県/福岡県/佐賀県/熊本県)につき、交付申請書の提出締切日であった 2008 年 2 月 26 日までに、5 都道府県(6 件のうち奈良県が要望を取り下げ)より正式な交付申請書の提出を受けた。

※(社)奈良県サッカー協会の要望(内示額 7,500 万円)取り下げについて(理由)

奈良県(行政)との調整で、大和高田市における廃校跡地にて、フットボールセンターの整備を進める調整をしていたが、急遽、開発許可申請を伴う想定外の周辺道路の道幅拡張工事が必要となることが判明し、奈良県とも協議の上、予算措置及び工事期間の問題から、2008 年度中に当該事業を実施することが困難と判断したため。

2. 助成金交付の決定

※（協議）資料No.18

VI. その他(報告事項)